

進化と継承

福井県議会議員

ささ はら のぶ ゆき

笹原修之 NEWS

みなさまの声を
県政に届けます

あわら市の皆様には、日頃より福井県政の発展に向けた県議会活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

8月29日から30日にかけて、嶺北北部を中心に記録的な大雨が降り続き、福井市・大野市・勝山市ではレベル5の大雨特別警報が発表され、あわら市や坂井市におきましても避難指示が発令されました。

県内における住宅被害は床上・床下浸水等が1575棟、被災企業は301社。農地や農業施設においても被害が大きく、稲の倒伏や冠水、田畑への土砂流入なども見られ、特に「そば」は作付面積の半分が枯死するなど壊滅的な状況に陥りました。また、奥越では河川の護岸損傷や道路の土砂崩れなども発災し、県内各地に大きな被害をもたらしました。被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

今後は一日も早く、被災された方々が通常の生活を取り戻し、道路・河川の復旧や災害再発防止に向けて全力で取り組んでまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。



7月27日～28日 総務教育常任委員長として長野県にて委員会視察を行いました

1日目

「部活動の地域展開」の先進地である長野市では、既存クラブチーム・総合型地域スポーツクラブ・プロスポーツチームを受け皿に、小・中学生1人あたり3万円分の電子クーポンを配布して、部活動からの地域移行を推進しています。

また、長野県は「移住したい県」20年連続1位であり、令和6年に「広域的地域活性化基盤整備計画(二地域居住)」を全国で初めて策定しました。今後は国の「ふるさと住民登録制度」を見据え、県は関係人口創出に向けた市町村支援に取り組むとのことでした。



2日目

長野県上田市の「長野県工科短期大学校」は厚労省の省庁大学校で、県設置の職業訓練校です。在学中から企業の担当者と面識を持つなど地元企業とのつながりが深く、卒業生の県内就職率は約96%と高く、若者の地元定着に大きく貢献されています。フィジカルAI等の最先端技術も導入されており、生徒誰もが機器を使用できるのが特徴で、地元企業約200社からなる教育研究振興会から支援され、これまでに2,254名の卒業生を送り込んでいます。県内国公立大学への編入が可能で、安価な学費(年/56万円)も魅了の一つです。



1 8月末の記録的な大雨の対応について

Q 今回の大雨により、県内各地で河川氾濫、浸水、土砂災害等が発生し、住宅浸水、農作物、企業活動にも甚大な被害が生じております。被災者の生活再建をはじめ、農林水産業、中小企業への支援、公共土木施設等の早期復旧に向け、補正予算の編成を含め、今後どのように対応していくのか、知事の所見を伺います。

A 知事

今回の大雨では、嶺北北部を中心に建物の浸水や道路、河川、農地等に被害が発生しました。県では、**住家被害への見舞金や事業者向け融資制度**など、緊急支援を実施しております。今後、**道路・河川・農業施設の復旧や、事業者・農業生産者への追加支援策**を取りまとめ、国に対して財政支援等を強く要請したところです。被災された皆様が一日も早く日常生活を取り戻すことができるよう、迅速に対応してまいります。

2 中小河川の治水対策について

Q 近年、豪雨災害が頻発・激甚化する中、8月末の大雨は従来の想定を超え、坂井市の田島川流域では浸水被害が発生するなど、治水対策の更なる強化が求められます。そこで、**今回の被害発生要因をどのように分析しているのか**伺うとともに、**中小河川の改修、維持管理、防災対策を含め、今後の治水対策の強化について**知事の初見を伺います。

A 知事

今回の大雨は、嶺北各地で**24時間雨量が観測史上最大の記録的な降雨**となり、中小河川の氾濫や内水氾濫が各地で発生したことが浸水被害の主な要因と分析しています。**今後は災害復旧を進めるとともに、河川改修やダムによる洪水調節、浚渫・伐木等の維持管理など災害に強い川づくりを推進します。**さらに避難体制の強化や防災情報の充実など、ハード・ソフト一体の流域治水を市町や住民の皆様と連携して進め、地域防災力の向上を図ります。

3 知事の発信力について

Q 石田知事のSNSは35万人を超えるフォロワーを有し、好意的な投稿が目立ち、福井県の魅力発信に大きく貢献しています。一方、県政や防災に関する情報発信が十分でないとの指摘もあります。そこで、**SNS発信をどう評価し、今後その高い発信力を県政や防災情報の充実にどう生かしていくのか**、知事の所見を伺います。

A 知事

私が日々発信しているSNSは、国内外の方々に福井の魅力を知っていただくきっかけとなっていると認識しています。これまでも県立施設の特別展や国への要望活動、熊本地震に伴う防災情報なども発信してきました。今後は災害時の情報発信の在り方も検討し、**部局横断のワーキンググループにおいて有識者の意見を踏まえ、効果的なSNS活用策を検討し、より多くの県民に必要な情報が届くよう、発信力の強化に努めてまいります。**

4 大瀧副知事の意気込みについて

Q 大瀧副知事には、**山形県庁や京都市役所で培った豊富な行政経験を生かし、医療・介護や農林水産業の担い手確保、若者の県内定着、加えてハラスメント防止など職員が能力を発揮できる職場環境づくりなど本県が直面する諸課題への対応が期待されます。**そこで、**福井県の強みと課題をどう認識し、県政課題にどう取り組むのか**、所見を伺います。

A 大瀧副知事

福井県は、豊かな自然や食、伝統工芸、ものづくり産業に加え、教育、雇用、子育てなど幸福度日本一を支える社会基盤が強みである一方、人口減少や地域の担い手不足、若者の県内定着が課題と認識しています。国や地方で培った経験を生かし、**結婚、子育て支援、教育、Uターン、担い手確保など持続可能な社会の実現に向け取り組んでいきます。**また、ハラスメント防止研修や職員アンケートを継続し、風通しのよい職場づくりを進めます。

5 北陸新幹線敦賀以西について

Q **小浜・京都ルート**の桂川案が決定され、新たなスタートラインに立った今、**令和9年度中の認可・着工**に向け、京都府・京都市が示す課題に丁寧に対応し、沿線自治体の合意形成を進める必要があります。そこで、**同盟会会長として、国への働きかけや関係地域の機運醸成にどう取り組むのか**、知事の所見を伺います。

A 知事

7月15日のルート決定後、沿線関係団体等と調整し、8月5日に北陸同盟会として政府・与党に対し、京都府等の課題を解決した上で、**認可・着工と一日も早い全線開業を求めました。**概算要求では地方の財政負担への配慮が明記された事項要求となっています。今後は、**年末の着工予算計上の実現に向け、時機を逸することなく政府・与党に働きかけてまいります。**また、イベントやSNSを活用し、関西の理解促進にも取り組みます。

6 原子力政策について

Q 乾式貯蔵施設の設置判断を一つの節目として、使用済燃料対策、高経年化への対応、原子力人材の確保・育成など、県の原子力行政は新たな段階を迎えています。そこで、**将来の発電所のリプレースや次世代革新炉の導入も見据え、今後の課題をどう認識し、どのような将来像を描き、立地地域の思いに添えていくのか**、知事の所見を伺います。

A 知事

県は、使用済燃料対策・高経年化や廃炉・地域振興などの課題に直面しており、特に**使用済燃料の県外搬出は喫緊の課題**と認識しています。**国と事業者にはロードマップの着実な実行と必要な搬出容量の確保を求めます。**また、県内各発電所の高経年化には、安全への投資や人材確保・育成を進めることも重要です。**原子力の将来像は国が明確に示すべきであり、避難道路や地域医療の充実など立地地域の課題にも取り組んでまいります。**

7 熊本地震を踏まえた防災対策について

Q 熊本地震や能登半島地震の教訓を踏まえ、地域防災計画の見直しや県庁被災時の代替拠点の確保など、防災体制の強化が必要です。また、避難所の暑さ・寒さ対策など避難所環境の改善は喫緊の課題です。そこで、避難所指定校となっている学校体育館等の空調設備について、具体的に今後どのように整備を進めるのか所見を伺います。

A 坂本防災安全部長

熊本地震や能登半島地震の教訓から、避難所となる学校施設の空調整備は、災害関連死の防止や避難者の健康維持のため極めて重要であると考えます。

小中学校を対象とした国の空調設備整備臨時特例交付金を活用し、今年度末には県内の避難所指定体育館65校で空調設置が完了し、設置率は25%となる見込みです。国は令和13年度までに設置率100%を目指しており、県としても国に十分な予算措置を求め、市町に対し整備促進を働きかけてまいります。

8 酷暑対策について

Q 近年の酷暑は、県民の生命と健康を脅かす重大なリスクとなっており、クーリングシェルターの充実や屋外労働者への対策が求められています。そこで、酷暑を自然災害にも匹敵するリスクと捉え、熱中症の危険にさらされる屋外労働者の命と健康を守るため、県としてどのような支援や環境整備を進めていくのか、所見を伺います。

A 田中産業労働部長

県内では昨年度、熱中症による労働災害が過去最多の19件発生し、安全確保が重要な課題となっています。昨年6月の法改正により、事業者には報告体制の整備や重症化防止の手順作成、労働者への周知が義務付けられました。

県としても福井労働局等と連携し、空調服やスポットクーラー等の導入に活用できる国の助成金等の周知や、専門家による働き方改革の伴走支援を行い、安心して働ける職場環境づくりを進めてまいります。

9 新幹線開業効果を一過性にしない観光誘客について

Q 観光客入込み数は2144万人、観光消費額は1987億円と過去最高を更新し、令和11年の目標を前倒しで達成したが、宿泊客は239万人と前年比6.4%減少し、関東圏からの誘客は95万人で前年比21.1%減となった。今後は、通過型から滞在型観光への転換が必要であり、関東圏からの誘客と宿泊需要の拡大にどう取り組むのか、知事の所見を伺います。

A 知事

関東圏からの宿泊客を増やすため、本県ならではの観光拠点や観光素材の発掘・磨き上げ、宿泊施設のリニューアルや上質なホテルの誘致を一体的に行い、JRや旅行会社等と連携して周遊プランの造成・販売を進めます。東京での観光商談会で大手旅行会社等に本県の魅力をPRするほか、私自身も観光イベントや出向宣伝にも参加し、旅行会社等との関係を強化しています。こうした活動を引き続き行い、県内宿泊者数450万人の達成を目指します。

10 農業施設の更新、維持管理について

Q 本県は圃場整備率94%で全国2位の高水準にある一方、農業水利施設の老朽化が進み、計画的な長寿命化や更新が課題となっています。また、担い手不足や農業者の負担も踏まえ、大区画化やスマート農業に対応した基盤整備を進める必要があります。そこで、農業水利施設の老朽化をどう認識し、今後どのように土地改良事業を推進するのか、所見を伺います。

A 大石農林水産部長

農業水利施設は高度経済成長期に整備されたものが多く、老朽化が進んでいると認識しています。このため、定期的な点検や機能診断により劣化状況を把握し、補修・更新方法を定め、計画的な更新に努めます。

また、農業収益の向上や作業効率化、担い手確保に向け、農地の大区画化や集約化等については、国の負担軽減制度を最大限活用し、市町と連携して農家や所有者の費用負担を可能な限り軽減しながら、土地改良事業を進めてまいります。

11 インフラの長寿命化について

Q 国土強靱化やインフラ老朽化対策を進める上で、財政負担や人的負担が懸念され、国による十分な支援確保を求めることが重要です。埼玉県八潮市の道路陥没事故や、令和8年熊本地震など、災害に対する備えの重要性が改めて認識されました。そこで、本県の上下水道施設の耐震化の現状評価と、今後の耐震化について、所見を伺います。

A 岩男土木部長

県内の上下水道施設の耐震化率は全国平均を下回っており、計画的な推進が必要と認識しています。県と全市町が策定した耐震化計画に基づき、令和11年度末までに水道施設約40%、下水処理場約50%などの耐震化を目指し、全体ではおおむね30年間で完了を目標としています。

国土強靱化実施中期計画による国の財政支援や、市町の料金改定による財源確保に加え、広域連携・官民連携を進め、効率的な施設管理と経営基盤の強化を図り、耐震化を推進します。

12 特殊詐欺被害について

Q 県内のSNS型投資・ロマンス詐欺など特殊詐欺の被害は、7月末時点で145件、被害額は約14億円と急増し危機的な状況です。県警察では防犯アプリの活用や運転免許センターのサポートブース設置など県民への啓発を強化していますが、今後どのように特殊詐欺の被害防止に取り組むのか、新たに就任された平野警察本部長の意気込みを伺います。

A 平野警察本部長

県内の特殊詐欺被害は、若年層から高齢者まで幅広く拡大し、件数・被害額とも過去最悪だった前年を大きく上回る深刻な状況です。県警察は、警察庁推奨アプリや国際電話利用休止手続の普及、各種媒体による注意喚起、金融機関と連携した水際対策を推進しています。

また、特殊詐欺連合捜査班と緊密に連携し、犯行グループの実態解明と戦略的な取締りを強化します。今後も関係機関と連携し、広報啓発と取締りを徹底して被害防止に取り組めます。

8月29日から30日にかけて 県内で降り続いた大雨

あわら市では、国道8号沿いの次郎丸区・北疋田区・南疋田区が冠水し、坂井平野の田圃は稲穂が倒れ、芦原温泉駅前の住宅地でも冠水箇所がありました。また、吉崎の県道29号は倒木で一時通行止め、北潟地区では北潟湖の水位が高く、排水できない内水氾濫も見受けられました。



新富区／駅前児童公園



東区



萱野区



矢地区



御簾尾区



次郎丸区



吉崎区



北潟西区



北潟東区



下番区

9月9日、議会期間中ではありましたが、被害が大きかった坂井市・福井市・勝山市・大野市を視察しました。坂井市丸岡町の食品スーパーでは、床上浸水により冷蔵・冷凍ケースが漏電し、陳列商品を全て廃棄。組紐製造工場では、織機のモーターが浸水し、製品や糸など4t分を廃棄。山崎三ヶ地区では、土砂や流木が大滝川を閉塞し、土砂を含む大量の川水が農地に流入しました。福井市羽生川と勝山市鹿谷川では、河川の増水や氾濫により護岸が損傷。大野市では国道158号の新丁トンネル付近の斜面が崩落し、道路が全面通行止めとなり、住民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしました。後日、福井県議団で被害の実態調査に向かい、9月議会での追加予算要求に努めました。



組紐製造工場



組紐商品／廃棄



食品スーパー



丸岡町山崎三ヶ地区



丸岡町山崎三ヶ地区



羽生川(福井市)



羽生川(福井市)



鹿谷川(勝山市)



鹿谷川(勝山市)



新丁トンネル(大野市)

県議会9月度追加補正予算におきまして、被災された方々への見舞金の支給に加え、被災事業者にはゼロゼロ融資制度や施設・設備等への再建支援、被災農業者には農業用機械・設備・農業資材等の営農継続支援、そして今後に備えた防災・減災対策として、浚渫が必要な河川の緊急点検や堆積土砂撤去など、総額約297億円を計上いたしました。被害を受けた方々の生活支援や、事業者の早期災害復旧に向け、国・県・市が一丸となって支援してまいります。

普段どういう活動をしているの？

笹原修之の活動報告

【2026.7▶9】抜粋

詳細は  Facebook
又は、ホームページを
ご覧ください！！



7月
国道8号加賀・あわら間
整備促進期成同盟会総会



7月
ハスの実の家
創立60周年記念式典



7月
細呂木区
保安林伐採の説明会



7月
県民スポーツ祭2026
総合開会式



7月
やなせたかし展開幕式



7月
あわら湯のまち三薬師
「よるもうで」



7月
金津まつり前夜祭
「響宴」



7月
本陣飾り物コンクール



7月
県道福井金津線道路改良
促進事業期成同盟会設立総会



7月
三国土木事務所への要望活動
(北潟地区区長会)



7月
細呂木地区市政懇談会



7月
北潟まつり (安楽寺)



7月
坂井地区農業農村
整備事業推進協議会



8月
あわら湯かけまつり



8月
あわら市古区地蔵まつり



8月
福井県民スポーツ祭視察
(女子ソフトボール競技)



8月
嶺北消防組合消防総合訓練
(北潟湖畔公園)



8月
ふくい高校生県議会



8月
北陸新幹線建設促進大会



8月
あわら市沖洋上風力に関する意見交換
(資源エネルギー庁/風力政策室)



竹田川河川改修促進協議会総会



第23回 あわら市戦没者追悼式



福井県福井バイパス道路建設促進協議会



第6回 全国高校生プレゼン甲子園



第37回
あわらカップカヌーポロ大会



第75回 福井県戦没者追悼式



日本飲食団体連合会
福井支部との意見交換会



稲田ともみ衆議と座布団集会
(古区)



あわら市社会福祉大会



稲荷山配水場更新工事／起工式



ウインドEXPO2026視察



ふるさと回帰フェア



浜坂区秋祭り



駅前児童公園
オープニングセレモニー



細呂木地区戦没者追悼会



秋のフルーツパーラー視察



福井県民スポーツ祭視察
(カヌースプリント競技)



新嘗祭供御献穀田拔穂式



北潟っ湖フェス2026



伊井地区戦没者慰霊祭

県政についてのご意見・ご要望をお聞かせください!!

明るい未来を切り拓く。福井 **新・時代**

福井県議会議員 **笹原修之**

【事務所】〒919-0632 福井県あわら市春宮三丁目19-15 (ハロープリント内)
TEL 0776-73-4513 / FAX 0776-73-1036 E-mail:sasahara@helloprint.co.jp

ホームページは
コチラから!

日々の活動を随時更新中!

笹原のぶゆき 検索

